

物理学史資料室紹介

日本における物理学史資料の保存状況

日本物理学会

物理学史資料委員会会報 No. 1

1994年9月

日本の物理学に関する歴史的資料の保存活動は、ここ10年来、着実に進められてきた。日本ではまだ、資料保存に対する一般的関心がうすく、限られた領域を除いては、その制度化もほとんど進んでいないことを考えれば、これは例外的な推移だといえるのかもしれない。

もともと資料の保存は、資料を集めて収納しておけばよいというものではない。閲覧・調査・研究など、それぞれの目的に応じて、資料を利用できるようになっていなければ、本当の意味で資料が保存されていることにはならない。むろん資料が散逸して、なくなってしまわないように、気くばりをすることが第一に重要であり、資料の蒐集が保存のための出発点となるにちがいない。しかししうず高く積まれただけの資料は、だれにも利用し難く、結局、宝の持ち腐れに終ってしまう。

だからつぎにぜひとも必要なのが、集められた資料をその内容・形式に応じて類別し、利用しやすいように整理しておくことである。しかし一言でそうはいっても、これが大変な苦労のいる仕事なのである。ふつう資料の整理などだれにでもできるつまらぬ仕事だと思われている。日本ではとくにそうであろう。

欧米諸国では、この仕事は専門的な訓練をうけ、正式の資格をもったアーキヴィストが従事する専門的な業務として公認され、高い評価を与えられている。しかし日本にはアーキヴィストという公認の専門職は存在せず、図書館の司書や博物館の学芸員が公認されているだけで、資料整理も必要ならばこれらの専門家が代行すれば間に合うだろう位に軽く考えられている。ちなみにアーキヴィスト (archivist) の訳語を辞書でひいてみると、記録保管人・文書係などとあり、いかにも片手間の仕事のように扱われている。

物理学史資料の保存活動はこうした実情を背景に進められてきたのであり、これを軌道にのせるのには多くの困難があった。しかも理工学の領域では、日進月歩のなりゆきの中で、新しい開拓を目指して前に進むことが要請され、歴史をふりかえってみるゆとりはとぼしい。したがって資料がどこかに存在し、それが放置されたままになっているという情報が得られたとしても、それをしっかりと保存してゆく仕事に着手しようとする気運はなかなか芽生えてこない。一般には、保存のための場所も、資金も、人材も与えられていないので、ぼんやり待っていたのでは何事も動きだしは

しない。10年ばかり前頃から、物理学史の資料保存活動が開始されるまでは、まさにそのとおりであった。

事態が変り始めたのは、物理学史資料の保存を積極的に進めようと望んだ人たちが現われてからである。しかしこの人たちは、物理学の素養は十分そなえていたにせよ、資料を扱う訓練など受けたことはなく、しかも作業はすべてボランティア活動として始められた。幸いだったのは、すでに欧米には物理学史資料の保存活動を本格的に進めていたいくつかの先例があり、そこから学ぶことができた。また、湯川秀樹、坂田昌一、湯浅年子、仁科芳雄などの個人的な資料が、未整理のまままとめて残されているという、整理・保存への意欲を誘発しやすい状況も用意されていた。

こうして物理学史資料の保存活動は、資料の残されていたそれぞれの場所で、いわば手さぐりの形で始められた。1984年8月に、日本物理学会に物理学史資料委員会が常置されたのも、これらの萌芽的な動向に誘発されてのことであった。しかしこの委員会も既成の専門家集団などであろうはずではなく、せめて個々の場所で得られた体験的知識を交換しながら、資料活動を促進してゆく助成的役割をはたすことが望まれた。いくどか資料問題のシンポジウムが開かれたのも、その意図に沿っている。

それにしても実質的な活動は、それぞれの資料

室において多大の労力を払いながら進められた。どこでも人手は決して十分ではなく、1人あるいは2人の実務担当者がいるだけで、それも時間のやりくりをつけながら、ほそぼそと作業が持続された。ひとつひとつ、資料に目を通しながら、資料が残されていたものままの事情を考察にいれて、類別を行ってゆく。細心の注意を払ったその整理作業が集積され、資料一覧がまとめられる頃になって、ようやく外来者にも資料の全貌がかいしまみれるようになる。こうして利用可能な資料の保存方式が次第に完結してきた。そして重要なことは、各資料室でのその作業を通して、物理学史資料に関わる専門的視野をもったアーキヴィストが、1人、2人と育ってきたことである。

こうした各資料室の実績にもとづいて、物理学史資料委員会では各資料室のアウトラインを、以下のようにまとめて紹介することができた。せっかく利用可能な形である程度まで整理された資料が保存されているのだから、大いに活用していただきたい。ただ各資料室毎に成立事情や運営方式が異っているので、それぞれの所定の手続きをふんで、利用を進めていただきたい。物理学史資料の保存活動は、今後も地道に続けられてゆくであろうが、さらに望まれるのは、やはりこれらの保存資料にもとづいた本格的な日本物理学史研究が、盛んになってゆくことである。

資料室一覧

お茶の水女子大学女性文化研究センター

(1981年創設)

〒112 東京都文京区大塚2-1-1

電話 03-3943-3151 Fax 03-3943-4682

責任者 館かおる（お茶の水女子大学助教授）

坂田記念史料室

Sakata Memorial Archival Library

(1973年4月18日創設)

〒464 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部 物理学教室

電話 052-781-5111 内線2468

運営組織・坂田記念史料室委員会

委員長 安野愈（名古屋大学教授）

仁科会館（1988年4月11日創設）

〒719-03 岡山県浅口郡里庄町大字浜中892-1

電話 08656-4-4888 Fax 08656-4-3618

責任者 高田要平（仁科会館館長）

運営組織・科学振興仁科財団

理事長 古山雅義

仁科記念文庫（1955年12月6日創設）

〒113 東京都文京区駒込2-28-45

電話 03-3942-1718

責任者 玉木英彦（仁科記念財団常務理事）

二戸市歴史民俗資料館（1967年11月23日創設）

〒028-61 岩手県二戸市福岡字長嶺80-1

電話 0195-23-2870

責任者 相馬福太郎（二戸市歴史民族資料館館長）

歴史民族資料館内に「田中館愛橋会」がおかれて
いる。

会長 丹野幸男

事務局長 大森春雄

日本物理学会

Physical Society of Japan (1946年4月28日設立)

〒105 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館
211号室

電話 03-3434-2671 (代表)

運営組織・物理学史資料委員会 (1984年9月設置)

委員長 勝木渥（信州大学教授）

物性研究資料室（1984年4月1日創設）

〒106 東京都港区六本木7-22-1 東京大学物性研究所

運営組織・物性物理学史グループ

代表責任者 勝木渥（信州大学教授）

（当資料室には常時勤務している人がいないため連絡先は下記の代表責任者宛におねがいしたい。）

〒390 長野県松本市旭3-1-1 信州大学理学部
勝木渥

電話 0263-35-4600 内線4141

Fax 0263-33-5323：共同利用につき勝木渥宛
と明記のこと）

湯川記念館史料室

Yukawa Hall Archival Library

(1980年4月1日創設)

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学基礎物理学研究所

電話 075-753-7009 Fax 075-753-7010

運営組織・湯川記念館史料室委員会

委員長 長岡洋介（京都大学基礎物理学研究所所長）

各資料室・所蔵資料とその利用

お茶の水女子大学女性文化研究センター

所蔵資料

湯浅年子に関する資料で次のように大別される。

1. 研究論文に関するもの98点
2. 研究過程での原稿・メモなど1400点
3. 評論の原稿、私物関係のものなど約500点
4. 日仏共同研究に関する仏文資料：ファイル24冊

上記資料の約70%は整理ができて資料カードも作成されている。主要なものの「資料一覧」ができており資料の利用希望者は活用できる。責任者（館かおる）に申し出てもらえば、所内の規定にしたがって資料の閲覧・調査・研究を行うことができる。

資料の紹介、利用研究の発表経過

1. 口頭発表：

- 1985年10月 日本物理学会 湯浅年子資料の現状 八木江里、阿部友子、松田久子
- 1987年9月 日本物理学会 湯浅年子資料研究 松田
- 1990年10月 日本物理学会 同上(2)：文献情報学的研究 松田
- 1992年3月 日本物理学会 同上(3)：日仏共同研究 八木、松田
- 1992年9月 日本物理学会 フランスにおける湯浅年子 松田
- 1993年6月 日本科学史学会科学史学校 資料からみた湯浅年子 松田
- 1993年8月 国際科学史学会 「湯浅年子資料目録」 八木、松田

2. 論文：

- 1988年 お茶の水女子大学女性文化研究センター報 2号 「湯浅年子資料整理の歩

み」 八木、阿部、松田

坂田記念史料室

所蔵資料

坂田昌一に関する資料が主で、遺稿・手紙類・蔵書など。日本学術会議議事要録、委員会記録のほか、名古屋大学理学部、さらに物理学教室に関する記録もある。他に有山兼孝の日録手帳が含まれている。資料の50%は整理が終っており、それらの資料カードも作成され、また「資料一覧」もできている。資料の「利用規定」が定められているので、資料の利用希望者は所定の手続きにしたがって利用することができる。これまでにも資料の見学、撮影、貸出など広く活用されている。

資料の紹介、利用研究の発表経過

1. 口頭発表：

坂田記念史料室について M. F. ロウ、広川俊吉、小川修三 日本物理学会 1985

On the study of "Models and Structures of Elementary Particles" in 50's and 60's in Japan. S. Ogawa, "Int. Symp. on Extender and Baund Systems" Mar. 19-21, 1992, at Karuizawa.

坂田昌一における「物理学と方法」—混合場理論をめぐって— 日本物理学会 1992年月、小川修三

2. 論文：

坂田記念史料室について 小川修三 日本物理学会誌 '90, Vol. 45, No. 5, pp. 342-344.
"Shōichi Sakata— His Physics and Methodology" S. Hirokawa & S. Ogawa, Historia Scientiarum No. 36 (1989), pp. 67-81

"Sakata and Nagoya Group" S. Ogawa, O. Hara, S. Kamefuchi, Z. Maki, N. Nakagawa, S. Hayakawa, M. F. Low & R.

Kawabe, Prog. Theor. Phys. Suppl. No. 105, 1991, pp. 181-239

仁科会館

所蔵資料

仁科芳雄の生家の蔵に残されていた彼の青少年時代の資料。類別すると

1. 小学校時代の習字、絵、学習ノートなど
150点。
2. 岡山中学校・第六高等学校時代のもの、学習ノート、手紙、ハガキ、写真など。
3. 東京大学在学、とくに卒業時の手紙など。
集計して手紙・ハガキは350点、写真は30点。

資料はすべて類別、整理されている。資料カードの作成も進行中。「資料一覧」も習字や絵を除いてできている。会館の中に資料の展示室があり、見学しやすくなっている。資料の利用希望者には所定の手続きをとった上で、研修室で閲覧することができる。資料の撮影もこれまでいくどか許可されている。

仁科芳雄の記念行事（生誕百年記念など）の機会に保存資料の紹介がたびたび行なわれてきた。印刷物に掲載されたものは次のとおり。

1. 1990年秋、「無限大」No. 85, IBM発行。
2. 1991年、グラフ「おかやま」
3. 1992年、地方誌「高梁川」

さらに映画「映像評伝・仁科芳雄」（1991年春作成）では、保存資料が全面的に活用されている。

1993年3月には資料集として「仁科芳雄博士書集（少年時代篇）」が科学振興仁科財団から刊行されている。

仁科記念文庫

所蔵資料について

理化学研究所における仁科芳雄の戦前・戦後にわたる活動を伝える資料が主で、一部、朝永振一郎に関する資料も含まれている。上下棚3個、小型棚5個、ファイルボックス2個の量で、約30%は整理がすんでいる。一部については資料カードもできている。資料の利用希望者は責任者（玉木英彦）に申し出てもらえば、所定の手続きにより利用しうる。これまでにも資料の見学、調査研究、撮影など広く活用されている。

なお仁科芳雄に関する資料は、現在の理化学研究所にも残されており、「理研3号館資料」と呼ばれて整理も進んでいる。資料カードもできており「資料一覧」が近く公刊されることになっている。これらについての問い合わせは上記「仁科記念文庫」宛にされるとよい。

資料の紹介、利用研究の発表経過

1. 口頭発表：

（口頭発表のリストの代わりに紹介記事のリストを掲げる。）

「日本物理学会誌」1990 Vol.45, No.10の769ページ参考文献中の1) 2) 3) 4) 6) 7)

「理研OB会会報」(1989-4) No.28 (竹内一)、同(1990-4) No.30 (玉木、竹内)

2. 論文：

矢崎祐二：Klein-仁科の公式導出の過程(I), (II) 「科学史研究」(1992年夏、秋) No.182, 81ページ, No.183, 129ページ

玉木英彦：仁科芳雄のヨーロッパ留学後半(1926-1928)の理論的研究に関する資料「物理学史ノート」創刊号(1991年3月) 18ページ

二戸市歴史民俗資料館

所蔵資料

資料館としては、考古学、民俗、歴史関係資料を主に保存しているが、田中館愛橋関係資料（手紙、メモ、ノート等、14000点）も保存されている。

資料の整理は3割近く進んでおり、これまでにも資料の見学、撮影、貸出などが行なわれてきた。資料カードの作成も進行中。資料の利用希望者は申し出て、所定の手続きをすれば、閲覧・調査などを行うことができる。

日本物理学会

日本物理学会の前身は東京数学会社（1877年9月創立）、東京数学物理学会に改組（1884年5月）、日本数学物理学会と改称（1919年1月～1945年12月解散）

以後、日本物理学会（1946年4月28日設立）として現在へ継続。

所蔵資料

1. 東京数学会社創立（1877. 9）以来、日本数学物理学会解散（1945. 12）までの学会関係資料
2. 日本物理学会設立（1946年4月）以後の学会関係資料
3. 物理学会へ寄贈された資料
 - a. 講義ノート、受講ノート（水野善右衛門、宮原将平、土井不疊、など）
 - b. 小谷正雄、量子力学学習ノート
 - c. 戦前の学術雑誌
東北大学理科報告
理化学研究所彙報
科学（岩波書店）など

資料の「利用規定」が定められているので、利用希望者はこの規定に従って手続きをとればよ

い。物理学会所蔵の資料に積極的な注意が払われるようになったのは、学会創立100年記念事業（1977年）が行なわれて以来のことである。その後、物理学史資料委員会も設置され（1984年）、物理学会内だけではなく、全国各地における物理学史資料の調査・保存活動の連絡センターとしての役割を努めることができるようにになった。

資料を利用した調査・研究の発表

1. 口頭発表：

1987年9月 日本物理学会・委員会資料（194～1960）辻哲夫 物理学会分科会

2. 論文：

1988年9月 創立初期の日本物理学会—学会に保存される各種委員会記録による
— 辻哲夫 日本物理学会誌
Vol. 43, No. 9, 674

物性研究資料室

所蔵資料

ダンボール箱（30×30×45cm）約110個分の文書資料と古い図書が書架（巾90cm×8段）4本分がある。

主なものとしては

1. 小谷・雨宮・下瀬：分子関数の積分表の元の計算（手書き原稿）
2. 安河内昂資料（遺品）・ダンボール104箱
3. 水野善右衛門の講義・受講ノートのゼロックスコピー

資料の整理は現在進行中である。資料内容の大ざっぱな仮目録ができているので、利用希望者は責任者（勝木渥）に申し出てもらえば便宜をはかることができる。

資料を利用した調査・研究の発表

物性研資料室に置くのが相応しいが、まだ持ち込んでいない資料（文書資料および聞書き記録）を用いたものも含む。

各資料室・所蔵資料とその利用

1. 口頭発表

- インバー研究と本多・増本 勝木渥 日本物理学会 1973年4月
広根・彦坂は異端の芽か 勝木渥 日本物理学 会 1977年10月
曾禰武の歩み 勝木渥 日本物理学会 1978年 4月
本多とWeiss 勝木渥 日本物理学会 1980年 3月
「聞書き」および“非学術的”文書資料の収集—私の経験から 勝木渥 日本物理学会 1981年4月
Heisenbergの強磁性理論と広根・彦坂の理論 勝木渥 日本物理学会 1981年4月
調査・収集作業の中間報告と今後の計画 勝木渥 日本物理学会 1982年3月
山代吉宗と、武藤俊之助の「極微世界の自然法則」 勝木渥 日本物理学会 1983年3月
KS磁石鋼の発明過程 勝木渥 日本科学史学会 1984年6月
有山手帳(1937~1962)——日本の物理学史の「鉱脈」の日誌の形での「露頭」 勝木渥
日本物理学会 1985年4月
物性研究所の「物性研究資料室」 勝木渥 日本物理学会 1985年10月
物性研究所の物性研究資料室 勝木渥、西尾成子、植松英穂 日本物理学会 1987年9月
茅誠司のワイス理論受容過程 勝木渥、足助尚志 日本物理学会 1989年3月
「聞き書き」記録を用いた研究 勝木渥 日本物理学会 1990年10月
日本物性物理学史—その資料と聞書き 勝木渥
日本科学史学会科学史学校 1990年12月
「物理学輪講会」発足の日 勝木渥 日本物理学会 1991年9月
曾禰武——時代早すぎた実験物理学者 勝木渥

日本物理学会 1992年9月

2. 論文

- インバー合金の研究と本多・増本 勝木渥『物理学史研究』9, 1 ('73)
曾禰武の歩み 勝木渥『物性研究』(前編) 29, 1 ('77); (中編) 29, 295 ('78); (後編) 30, 7 ('78)
広根・彦坂は異端の芽か? 勝木渥『物性研究』29, 93 ('77)
若き日の魂、ひとよを貫く—曾禰武先生に聞く 勝木渥、近桂一郎『日本物理学会誌』33, 561 ('78)
本多の磁気理論と、わが国における Weiss 理論の受容の過程 勝木渥『物性研究』I. 31, 1 ('78); II. 31, 245 ('79); III. 33, 37 ('79); IV. 35, 1 ('80); V. 36, 355 ('81); VII. 38, 178 ('82); VII. (永井寛之、斎藤方成と連名) 41, 96 ('83)
量子力学前夜の日本—その一情景 勝木渥『数理科学』No.189, 49 ('79)
武藤家訪問記 勝木渥『物理学史通信』No.30, 1 ('81)
KS磁石鋼の発明過程 勝木渥『科学史研究』(I) 23, 94 ('84); (II) 23, 150 ('84)
インバー物語 勝木渥『金属』55, No. 1, 48 ('85)
物性研究資料室 勝木渥『物性研究』24, No. 4, 5 ('84)
「物性研究資料室」私記 勝木渥『物性研究』(上) 24, No. 6, 12 ('85); (下) 25, No. 2, 3 ('85)
「聞き書き」に関する覚え書 勝木渥『科学史研究』(アゴラ) 24, 180 ('85)
「Kotani-Amemiya-Simose 表(KAS Table) の資料について」石黒英一・木村東作『物理学史通信』No. 58, 1 ('86)

Kamerlingh-Onnes の学位論文 勝木渥『物理史通信』No. 58, 4 ('86)

「茅誠司における Weiss 理論の受容の過程—日本物性物理学史の一環として」足助尚志『物性研究』52, 119 ('89)

日本における量子力学の曙 I. 仁科芳雄の帰国前 勝木渥『日本物理学会誌』45, 752 ('90)
物性研究所の「物性研究資料室」 勝木渥『物理学史ノート』No. 1, 7 ('91)
物性物理学史四方山話 勝木渥『個体物理』I. 26, 531 ('91); II. 26, 676 ('91); III-1. 27, 83 ('92); III-2. 27, No. 9 ('92)

湯川記念館資料室

所蔵資料

A 湯川秀樹に関する資料。次のように大別される。

1. 研究論文の原稿、計算、メモ
2. 講演原稿、評論・座談会の原稿
3. 研究会ノート、論文抄録
4. 講義ノート
5. 大学・研究所関係記録
6. Progress of Theoretical Physics 刊行関係記録
7. 原子力委員会・物理学研究連絡委員などの記録
8. パグウォッシュ会議・科学者京都会議関係記録

B 湯川秀樹の蔵書・雑誌類（約500冊）

書き込み、傍線のあるものも多い。

上記資料の20%位まで整理が進み、資料カードもできている。これらについては「資料一覧」がまとめられている。また1985年2月6日に開設された湯川記念室（もとの湯川研究所長室）には、主な資料が展示されている。

これまでにも資料の利用は国内・国外の研究者によって活発に行なわれており、資料の閲覧・調

査研究・撮影・貸出など広く活用されている。「利用規定」が定められているので、資料の利用希望者は所定の手続きをとれば利用することができる。

資料の紹介、利用研究の発表経過

1. 口頭発表：

中間子論の誕生—湯川記念館資料室の発足に当って 河辺、小沼 物理学会分科会特別講演 1980年3月

湯川記念館史料室 小沼 物理学会分科会
1982年3月

2. 論文：

湯川記念館史料室私記 河辺、小沼 『素粒子論研究』 65, 4 (1982) 223-237.

中間子論誕生の歴史的資料の発見 小沼『自然』1980年10月号

史料に見る湯川先生と税務署 河辺、牧『京大付属図書館報・静脩』 26, 3 (1990. 3) 4-8.

"The Yukawa Hall Archival Library, Kyoto," R. Kawabe, Prog. Theor. Phys. Suppl. No.105 (1991) 307-311.

YHAL Resources, Hideki Yukawa (I) 『素粒子論研究』 65 (1982) 239-269.

YHAL Resources, Hideki Yukawa (II) 『素粒子論研究』 70 (1985) 289-306.

YHAL Resources, Hideki Yukawa (III) 『素粒子論研究』 77 (1988) 161-202.